



# 対馬丸 通信

発行：(財) 対馬丸記念会  
 発行人：高良 政勝  
 編集：対馬丸記念会事務局

Tsushima maru press

平成 23 年 3 月 15 日発行 第 22 号

## 対馬丸記念会の存亡について

対馬丸遭難者遺族会は、幾多の困難を乗り越えて財団法人対馬丸記念会（以下「記念会」と言う。）を設立して、平成16年に対馬丸記念館を開館し、遺族をはじめ関係者の積年の願いを実現しました。記念会は、国や那覇市の種々の支援を受け、遺族をはじめ篤志家の物心両面の協力、多くの皆さんの御芳情を頂いて鎮魂と平和の発信に努めています。

ところが、平成20年から国を挙げて公益法人制度改革が行われており、これは、記念会の存亡に関わるものとなっております。記念会は、5年間は特例財団法人として存続するが、改革期間である平成25年11月までに、公益財団法人または一般財団法人に移行するか、移行条件を満たしきれなければ解散することにもなります。

公益財団法人は、「公益」という称号が使えるので、社会的信頼面で有利であり、税務上の優遇措置が受けられ、寄附者にも税金控除の対象団体になることから寄附が集まりやすい。そのため、篤志家の寄附を大きな財源としてきた記念会は、公益財団法人を目指すべ

きであります。

公益財団法人の認定基準として大きく二つあります。一つ目が公益目的事業の費用が50%以上になることであります。主な事業として、公益目的である対馬丸記念館の運営を行っており、この条件はクリアします。しかし、二つ目は財政基盤の明確化であり、寄附を財源とする場合は、大口寄附者上位5名の個人又は団体の名簿を示す必要があります。記念会は、篤志家の不定期な寄附を大きな財源としていることから、この基準を満たすことが極めて大きな課題となります。

現在、記念会は国から補助金を年間約1000万円もらい、特別会計として語り部活動、講演会開催、「対馬丸通信」に係る経費などに使っておりますが、国の補助金は、使いみちが限られており、慰霊祭経費、展示物の補修など一般会計には使えません。

一般会計は、支出として記念館の光熱水費、職員の給料など年間の管理費で約1300万円あります。収入は、入館料で約400万円、協力会員費で約100万、その他に寄附金収入があります。入館料と協力会員費だけでは年間800万円の赤字となります。幸いにも大口の寄附があつて不足を補っていますが、将来の記念館補修費等の蓄えもできず、不定期の寄附に頼って記念館を運営する自転車操業の状態で、経営は極めて厳しい現状となっております。記念会は、抜本的に財源確保を計らないと、公益法人制度改革もあつて危機的状況になると思われれます。

対馬丸が撃沈され1476名もの犠牲者を出した事件の歴史とその教訓を伝え、平和を発信する責務を果たすために財源確保に向けて、関係団体などへの働きかけを行っておりますが、昨今の情勢で厳しいものがあります。遺族・協力会員の皆様には、以上のような状況をご理解いただきたいと思います。



鹿児島県板金工業組合様から  
銅板千羽鶴が贈呈されました  
※3面に関連記事

# 花いっぱい蝶舞う未来公園まつり

平成22年11月7日 那覇市旭ヶ丘公園にて

対馬丸記念館が立地する旭ヶ丘公園で、「花いっぱい蝶舞う未来公園まつり」が昨年11月7日に開催されました。あいにくの雨空でしたが、しかし植樹には最適な日和でした。来賓に翁長雄志那覇市長をお迎えし、若狭・天妃両小学校の児童やガールスカウト、地域の皆様でサンダンカやランタナなど六六〇鉢余りを公園周辺に植えました。来賓挨拶のなかで、翁長那覇市長は若狭地区の未来イメージとともに、那覇市が目指す平和行政について、力強く語られたのが印象的でした。セレモニーアトラクションとして、若狭チームドンドン太鼓が勇壮なエイサーを披露し、児童代表挨拶では若狭小学校の鉄本成美さんがこんな素敵な挨拶をしてくれるなど、子どもたちも一生懸命参加してくれました。

## ■参加児童代表挨拶

### 花いっぱい蝶舞う公園を夢見て

若狭小6年 鉄本 成美

のこと、低学年の頃から慣れ親しんでいるオオゴマダラには特別な思いがあるからです。

若狭小の蝶ハウスでオオゴマダラの数を増やそうと、一生けん命植木の手入れをしたり、オオゴマダラの金のさなぎを初めてみた時は宝箱にしまっておきたいくらい感動しました。

花を咲かせることで、この公園に蝶がたくさんとんでほしいと思います。

そして、花をいっばいに咲かせるという事は、蝶だけではなく、私たち人間も花を見て「きれい」と感じ、心がいやされるので、とてもいいことだと思います。

す。また、この場所は沖縄県民だけではなく、観光客もよくおとずれるので、その人たちの心に残るような公園になってほしいと思います。

いつも見なれている公園に花をたくさん植えることでこの公園がどのように変わっていくのかとても楽しみです。小さな公園ではありますが、オオゴマダラが住みやすい環境へと作り変えられて、ここから全世界へと「平和」を伝えていけたらいいと思います。



雨のなか高良会長と並んで植樹される翁長那覇市長



挨拶を読み上げる鉄本成美さん



来賓挨拶をされる翁長雄志那覇市長



# 平和を願う心を世界に発信する 銅板千羽鶴 贈呈式 平成22年11月15日

2010年(平成22年)11月16日 火曜日

鹿児島 ▶ 対馬丸記念館

## 平和の結晶海越え

### 板金 銅製千羽鶴贈る

鹿児島県板金工業組合の会長は15日、那覇市若狭の対馬丸記念館を訪ね、銅板で折った千羽鶴を高良政勝館長に贈呈した。関係者は、1944年に鹿児島の悪石島沖で対馬丸が撃沈されたことを挙げ、「沖繩、鹿児島の平和を願う思いの結晶」と喜んだ。千羽鶴は、同記念館で随時常設展示される。今年7月、宮野野町の憲紙の千羽鶴が燃やされた霊魂多数の塔に飾られたことを報道で知った鹿児島県板金工業組合の会長は、銅板で折った千羽鶴を対馬丸記念館へ贈呈することを提案し、悪石島沖で撃沈された対馬丸の遺跡を巡る同記念館への贈呈を決めた。組合員18社、24人が9月中旬から制作を開始。11月下旬、厚さ0.1mmの銅板を折り曲げて千羽鶴を作った。趣旨を説明した資料と一緒に、銅板を無償提供した。会長は「沖繩県民の心から折った千羽鶴を制作し、命を失った子どもたちや戦没者の御霊を弔うとともに世界平和の達成に向けて贈りたい」と贈呈の趣旨を語った。高良館長は「沖繩の空に軍用機が飛び、千羽鶴が飛んでくれば、平和が来たと思う。善意の結晶の千羽鶴を恒久平和を願うシンボルとして、永く展示させていただきます」と感謝した。

新聞報道にある通り、銅板千羽鶴の贈呈式が昨年11月15日に対馬丸記念館にて行われました。これは、鹿児島・沖繩両県議会が仲介先となり、鹿児島県と縁深い対馬丸記念館が贈呈先となったものです。式典には、贈呈者の鹿児島県板金工業組合(末永悟理事長)役員ご一行と鹿児島県議会から柴立鉄彦副議長が来県されました。贈呈者の深い想いは展示ケースにしっかりと刻まれていますので、ぜひ来館頂きご覧ください。

また、沖繩県議会からは、高嶺善伸議長が来賓としてお見えになり、ごあいさつを頂戴しましたので、掲載致します。

2010年(平成22年)11月16日 火曜日 1版

## 銅の千羽鶴 朽ちぬ祈り

### 鹿児島の板金職人手作り 対馬丸記念館へ寄贈

大正洋戦争中の1944年8月、鹿児島県米潜水艦の魚雷を撃て沈没、1400人以上の犠牲者を出した米潜水艦「対馬丸」の悲劇(後世に伝へ、平和を願う)を後世に伝えるため、鹿児島県板金工業組合(末永悟理事長)に加入する職人が、銅板製の千羽鶴を制作し、那覇市の対馬丸記念館に寄贈した。「永遠に朽ちない銅製の千羽鶴は歴史を語り、平和を願う」と、同組合の関係者を喜ばせている。(知念清隆)

今回の寄贈のきっかけは、今年7月、宮野野町の憲紙の千羽鶴が燃やされたことを報道で知った鹿児島県板金工業組合(末永悟理事長)に加入する職人が、銅板製の千羽鶴を制作し、那覇市の対馬丸記念館に寄贈した。関係者は、1944年に鹿児島の悪石島沖で対馬丸が撃沈されたことを挙げ、「沖繩、鹿児島の平和を願う思いの結晶」と喜んだ。千羽鶴は、同記念館で随時常設展示される。今年7月、宮野野町の憲紙の千羽鶴が燃やされたことを報道で知った鹿児島県板金工業組合の会長は、銅板で折った千羽鶴を対馬丸記念館へ贈呈することを提案し、悪石島沖で撃沈された対馬丸の遺跡を巡る同記念館への贈呈を決めた。組合員18社、24人が9月中旬から制作を開始。11月下旬、厚さ0.1mmの銅板を折り曲げて千羽鶴を作った。趣旨を説明した資料と一緒に、銅板を無償提供した。会長は「沖繩県民の心から折った千羽鶴を制作し、命を失った子どもたちや戦没者の御霊を弔うとともに世界平和の達成に向けて贈りたい」と贈呈の趣旨を語った。高良館長は「沖繩の空に軍用機が飛び、千羽鶴が飛んでくれば、平和が来たと思う。善意の結晶の千羽鶴を恒久平和を願うシンボルとして、永く展示させていただきます」と感謝した。

### ごあいさつ

#### 沖繩県議会議長 高嶺 善伸

鹿児島・沖繩県両県民の平和を願う心を世界に発信する銅板千羽鶴の贈呈式に当たり、沖繩県議会を代表いたしまして、ごあいさつを申し上げます。

鹿児島県板金工業組合におかれましては、鎮魂と恒久平和を願い、一枚一枚丹精込めて制作されまし、た銅板千羽鶴を対馬丸記念館へ寄贈していただき、心から感謝申し上げます。

また、今回の寄贈に際し、御尽力頂きました鹿児島県議会と沖繩県議会は、昨年十一月四日、薩摩

侵攻四〇〇年の節目の年を迎えるにあたり、これまで築いてきた友好関係を更に発展させるため、両県議会議長による共同声明を宣言いたしました。

本日の寄贈式典は、この共同宣言を踏まえ、両県の更なる交流に大きく貢献するものであり、改めて、鹿児島県議会の御尽力に対し、心から敬意を表し感謝を申し上げます。

そして、対馬丸の悲劇を後世に伝えるため、対馬丸慰霊碑を建立し、今もお慰霊碑を守り続けております。悪石島の島民をはじめ鹿児島県民の皆様に対しまして、感謝を申し上げます。

悪石島では、今でもボランティア活動の一環として、毎月第三土曜日に子供たちが慰霊碑周辺の清掃活動を行い、平和の大切さを学んでいると聞いております。島民の皆様の心温まる行いに、沖繩県民は感謝の気持ちで一杯であります。

御承知のとおり、対馬丸は、沖繩戦が始まる前年の一九四四年、沖繩から長崎へ疎開する学童八三四名と引率者・一般県民等合わせて一七八八名を乗せて航行中、八月二十二日、鹿児島県・悪石島付近で米潜水艦の魚雷攻撃を受け沈められました。

対馬丸は、建造から三十年も経った老朽貨物船で速度が遅く、安全性に問題があり、潜水艦の格好の標的でありました。

また、対馬丸を撃沈したボー

フィン号は、民間船を攻撃したにも関わらず、米国ではその功績が称えられていることは理解に苦しみません。

さらには、対馬丸事件は日本軍によるかん口令が敷かれ、悲惨な犠牲者が出たにも関わらず国民に知らされないように封じ込まれ、事件が知られるようになったのは戦後しばらく経ってからでありました。

沖繩戦の始まる以前に起きたこの悲しい歴史、犠牲になった子供たちのことを決して忘れないためにも、この千羽鶴が、来訪者の皆様に戦争の悲惨さや平和の尊さを考えるシンボルとして愛され、そして、対馬丸記念館が事件を正しく後世に伝え、平和の尊さを学ぶ場所として活用されますよう願っております。

結びに、わざわざ沖繩へお越し下さいました鹿児島県板金工業組合の末永悟理事長様及び鹿児島県議会の柴立鉄彦副議長様をはじめ、御臨席の皆様のおかげで、御活躍を祈念申し上げます。

また、対馬丸事件を風化させないよう日々御尽力頂いております財団法人対馬丸記念館の高良政勝会長はじめ会員の皆様、御健勝と御活躍を祈念するとともに、県民をはじめ多くの人々に対馬丸記念館に足を運んで頂きますようお願い申し上げます。本日は、誠にありがとうございました。

平成二十二年十一月十五日

# 視察

□1月12日

内閣府沖縄振興局参事官(特定事業担当) 付佐藤正人参事官補佐

□2月25日

財務省主計局内閣第二係 茂手木繁伸係長

内閣府政策統括官(沖縄政策担当) 付企画担当参事官室 権田太参事官補佐

## トピックス

□10月17日

全国疎開学童連絡協議会(坂上順夫会長) 主催の戦後65年シンポジウム「疎開の中にあつた差別」第1回は沖縄の学童疎開をテーマに、海上漂流6日間・奇跡的に生還した平良啓子さんに聞く、と題したイベントが東京都品川歴史館で開催されました。会場には学童疎開関係者など百三十名が詰めかけ、平良さんの証言を熱心に拝聴、対馬丸事件の理解を深めました。

□1月30日

「第56回全琉音楽祭」(主催・沖縄タイムス社、県音楽教育研究会)が、沖縄市民会館大ホールであり、対馬丸平和杯は、名護市立名護小学校(学級合唱)、竹富町立大原中学校(学校合唱)がそれぞれ受賞しました。同音

音楽祭には、音楽を通して平和の尊さを感じて欲しいと、81年(第26回)から対馬丸平和杯(記念館開館後に名称変更、以前は小椋平和杯)を贈呈しています。

## イベント

□12月5日

第16回「がんじゅー講座」

1階企画展示室において、「他人を喜ばせる力 他喜力」と題した講演会が開催されました。会場に入りきらないほどの聴衆の中、講師の久高学先生(マ

ンマ家クリニック医師/乳腺外科医)は、心と体の健康についてわかりやすく、時に楽しい談話を交えつつの講話でした。



会場に入りきらないほどの聴衆の中、講師の久高学先生(マ

□12月17日~1月15日

第15回対馬丸記念館特別展

「世界の平和児童画展」対馬丸学童に捧ぐ」が、今年も開催されました。展示された絵は、世界中の子どもたちがそれぞれの生活に根ざしたテーマを描いており、今年の世界の児童画と肩を並べ、県内児童の作品をより多く展示する工夫をしました。

□2月20日

第17回「がんじゅー講座」

「素敵に暮らすために」元気になる食事の話」と題した講演会が、講師に管理栄養士・健康運動指導士の伊是名カエ先生をお迎えして実施されました。

沖繩県民の敵、メタボシンドロームについて、栄養学と運動面の両面からわかりやすく解説し、食事の改善とその場で出来るストレッチ等を指導しました。



沖繩県民の敵、メタボシンドロームについて、栄養学と運動面の両面からわかりやすく解説し、食事の改善とその場で出来るストレッチ等を指導しました。

## ご寄贈

□10月5日

安次富長昭様

当財団評議員の安次富長昭琉球大学名誉教授より、「僕のわたしの対馬丸展」で特別展示として出品していただいていた、ピカソのリトグラフ「鳩」が対馬丸記念館に寄贈されました。ピカソのオリジナルリトグラフで大変貴重な美術品です。1階展示室、昭和19年の再現教室・教壇の上部中央に特別展示として掲げましたのでぜひご覧下さい。

□2月20日

高橋健一・上山肇様



当財団評議員で生存者の上原清さんの仲介で、護国神社に寄贈された対馬丸の絵の複製画が船舶画家の高橋健一さんと絵を依頼した上山肇さんより寄贈されました。



船舶画家の高橋健一さんと絵を依頼した上山肇さんより寄贈されました。

## ご寄附

□12月29日

香典返し 故外間宏榮様

12月13日に、百三歳でお亡くなりになった、当財団の前身にあたる、対馬丸遭難者遺族会の第三代会長を務められた、外間

宏榮様のご遺族から香典返しとして、金二百万円の寄附金を頂戴致しました。外間様には開館以来、物心両面で支えていただきました。謹んでご冥福をお祈り致します。

□1月24日

沖繩歯科インプラント研究会様

毎年チャリティーオークションで集めた浄財を寄附して戴いている同会から今年も23万円余りを頂戴致しました。

□11月1日~2月10日

荒木ユイ子、高良美寿代、だん王保育園、外間邦子、儀間真勝、糸数裕子、松田俊子、島袋淑子、又吉キク、神田栄三、渡口眞常、幸地秀子、清澤由紀、宮城千恵子、山口悦子、我喜屋敏子、渡口眞邦、伊是名カエ様。

## お知らせ

以上の方々からご寄付を頂戴いたしました。心よりお礼申し上げます。NHKのインターネット・ウェブサイトを「戦争証言アーカイブス」において、証言記録市民たち「沖繩対馬丸」がいつでも視聴が可能になっています。http://www.nhk.or.jp/shogenarchives/ からたどって下さい。次号で詳しく紹介します。